

18/12/28 名古屋城跡バリアフリー検討会議(名古屋市民オンブズマンメモ)

10:00

蜂矢主幹: 始める

渡辺局長: 出席ありがとう

前回 4 月 24 日 史実に忠実に+バリアフリー
5 月に方針を定めた
木造バリアフリー コンペにより幅広く募集する
名古屋城全体のバリアフリー 現況調査報告
貴重なご意見を賜りたい

蜂矢主幹: 出席者紹介

西形、野々垣、佐野、中嶋欠席
写真・録音はこれまで

堀越: 検討状況について事務局から説明を

名古屋城やがた: 説明する

資料 1-1 5 月 3 案を提案

5 月 30 日 方針公表 資料 1-2

内部エレベーターは 4 人が限度 一般的なエレベーターは載せられない

外部エレベーターは外観を損なう

基本方針 エレベーター付けない

可能な限り保証する

新技術開発 国内外から幅広く公募する

7 月と 11 月に説明会

4 社と 3 社

11 月に公募スキーム案説明

資料 1-3 公募スキーム案

1 案 4 年をかける 十分な審査機関 中小企業が参加しにくい?

2 案 3 年をかける 企業の開発費用が抑えられる?

資金調達 自己調達

所有権 参加事業者に帰属

審査員

10:15

堀越: 順番にご意見頂きたい

川地: ご指名

公募スキーム 要綱が出ていない

市から以前頂いた資料 障害者団体から頂いた「7つの基準」

いかにクリアしていくか

問題点を書いてある

1つ 何人かで使用する 厳しいかも

7つの基準 ベースにおきながらやればよいのでは

国際コンペ 当然の話 理由 車いすごと運ぶ

可搬式階段消防設備 10社 かなりヨーロッパ製

ドイツ、オランダ、デンマーク

海外の参加がないと意味が無い 海外は必須

公募の時点 のべ4年のコンペ スタートが重要

応募要項に満足するだけでなく、プロポーザル方式で添付してチェックする必要がある

案1、案2

あるメーカーに確認 改善するためにどういう事が必要か

いちから作り直さないと行けない 数千万円単位の開発費が必要

2-3000万円の費用はかかる

実現するためのコンペ

案2 1回の審査 方向付けがよいのではないか

途中でも参加できるように 後出しじゃんけん 有利になっては意味が無い

ルールを決めないといけない

いままで過去の事例 問題になることがある

日本独自のルールではなく、国際ルールにのっとったもので

審査員「障害者の意見も反映させる」審査員の中に入れるべきだ

堀越: 具体的でありがとう

小浜: 初めて参加する よく分かっていない

公募条件 フリーなものか?

条件を付した方がよい気がする

私の考え 車いす昇降 床が持ち上がるものが安全で快適

一番よいのはエレベーター 内部はお城は柱が通っていない

エレベーターシャフトは難しい 小規模なものにならざるを得ない

復元を重要視するなら柱撤去はできない
シャフト形エレベーターは無理
1階ごとあがっていけば床板はがす必要がある
あまりにもフリーではなく、条件を絞って
自動車工場 リフトアップ 1階部分のみできる
私個人としてはオススメしたい
安全・快適な昇降装置を
細かいことはわからない

堀越: 公募条件

今後詰めていくと言うことでよいか

やがた: 1月-3月に公募条件を詰める

小松: 少し期間が短いのではないか

1から作るのではないのであれば4年
これまでにないもの 時間をのばすか、第1回はここまで
第2回ここまで 分割しては
大きな目的 天守をくまなく見たい
災害時の避難、緊急時の搬送 活用できるもの

堀越: ありがとう

すこし期間を

磯部: 検討会議4月24日と5月30日方針の関係は?

ただ意見を述べただけではないか
はっきりしないと
検討会議が検討して、方針を決めたように思える
私としては納得いかない
施設計画があって、何を作ろうとしているのか
箱だけのもの
どう使いかは明確にしていない
来場者の数 見えない ピーク時
どのように動くか 何が必要か
滞在時間 中身がどうかで決まる
いろいろと計画しないと行けない

移動のための施設 キャパシティが必要か
「階段だけでいい」→昇降装置が必要 何人見積もり？
どんな装置が必要か出てくる
見積もりがないと開発が難しい
条件 必要条件 どのような人を対象とするか
間違うと排除される人が発生する可能性
運ぶ速度 何人の人が楽しめるか 帰ってこれるか
きちんと考えてやっていかないと
安全性、耐久性 機械なので絶対安全は難しい
少し話したのは「階段模型を作れ」
昇降装置の実験設備として提案したのではない
エレベーター付けない 普通の人が階段を上れるか確認して欲しい
登れない人はだれか？
今回、車いすの人ばかり対象
排除される人が出てくる可能性 いろんな装置を開発してきた
排除してきたことがあった
エレベーターが最適
階段模型 一番最初に取り組むべきこと 条件が決まってくる
安全性 誰が確認するのか
福祉機器、昇降機器 検査機関を通さなければ市場に通せない
新しい技術提案 第三者評価ができるのか
検査方法を含めた提案をしないと使えない
入試科目が決められている 科目で採点する
評価基準はあらかじめ設定する
相対的なものではなく、絶対的な水準がいる
どんぐりの背比べ
スケジュールだけ アクセルだけではダメ ブレーキもないとだめ
いい失敗例 原発 覚えているはず アクセルだけだった
最後に、最終審査 合格者がゼロの場合どうしますか？
スケジュール審査 おかしな話になる

堀越:前提条件

方針との関係 ご意見を頂いて、その場ではご意見を頂いた
決めるのは市長

西野所長:ありがとう

最初の質問 4月24日 3つの案を示した
先生から意見を頂いた 市は受け止めた
会議では決めたわけではない
今回の会議 ご意見を頂いたが、仕様書を作ってコンペを行う
今回の意見を踏まえて
名古屋市の責任で進める

堀越: 具体的でありがとう

高橋: もう呼ばれないかな? 参加させて頂いた まずお礼
磯部先生と重なるところ 現在の見解

- 1 史実に忠実な復元はできないと断言してもよい
現在の建築基準法にあわないものはできない
地震、耐火の問題 意見表明
- 2 誰もが利用できる 最大のポイント
エレベーター開発 150年以上 駅 いろんな昇降機
最終的にはエレベーターとエスカレーターを併用
現在の技術では安全・安心
多数の人が利用する ベビーカー・車いす 何人のか
チェックする必要がある
枠を狭めないために間違いなく必要
- 3 工程が気になった 審査をしながらものをつくっていく
合格しなければどうなるのか
建築 様々なプロポーザル 見込みがある
竣工検査と実用化が同時はあり得ない
やむを得ないは言い訳ができない
後戻りができない工程表を公表していいのか?
お役所として真摯に検討しないと、説明がおかしいということに気づいているはず
- 4 報道 これから新たな歴史を作る
排除して新たな歴史を作る? 困ったことになる
公共財として設立
博物館になる 考え直すべき
後戻りができない公募スキームは現実的ではない
ものだけは開発できるが、人が見えていない 設置しても利用できないのではないか

渡辺: 今回参加した

3つのことを話したい

1 厚生労働省、経済産業省 介護ロボット数年前から開発

公共施設と言うよりは介護現場 自立支援

今年度から各都道府県 開発推進連携協議会

私もある県でプロジェクトコーディネーター

シーズニーズマッチング協議会

技術先行形 こんなすごい技術があるぞ

開発したけど使われないものが山ほどある

「人を持ち上げて移動する」あり得ないと考えたほうがよい

思い込みで使われないことが多い

ニーズ先行形 調査した上で

思い込みではなく、だれが対象、どの困りごと 費用対効果

ニーズを踏まえたものでないといけない

ニーズを踏まえないと無駄である

誰のため 顔が見えないものはやるべきではない

シーズ先行はやってはいけない

ニーズ先行形スタイルに落とし込むべき

2 いろんな提案があっという 1つに絞る必要は無い

垂直昇降 従来のエレベーターでなく、新しい垂直昇降

特定の技術を排除はダメ

3 差別解消法 個別に対処 合理的配慮ではなく基礎的環境整備

想定される来場者を対象にしないとそもそもだめ

障害を理由に「10分並んでね」だめ

山田:名古屋大学の山田

いろいろ委員がおっしゃられていた 共感することばかり

私の視点

渡辺先生の話 介護ロボット開発

サービスロボット開発

人間ロボット開発 15年くらい

いらぬものがいろいろできる

ロボット 腕とか足 実用化されているものは産業用ロボット

実績は3-40年ある 同じものをつくれれば儲かる

自動車を作るためのロボットではなく、生活者のためのロボット

実証試験をしないとけない

結果として、実用化に足らないものが多々出てくる

スキームが重要

どなたかに使える-どなたかに使えない

1人に合わせるのが精一杯 あの人にもこの人にもは難しい

「100人障害者がいれば100個の杖が必要」

顔の見えない技術開発

エレベーターはよい

私の提案 エレベーターを作ると、構造的なものに関わる

建築基準法 機能安全

構造的なもの、周辺技術 どこまで見越していくか

適用すべき安全性 スタンスが違う

出てきたもの玉石混淆 構造的にはこうしよう 周辺技術はこうしよう

最初からコンセプトを作って

前に戻ると、ドライブする人が必要 有識者が入っていないとダメ

最終的な責任は市長

有識者はどういった立場 ジュリスト有識者の責任

もし責任が及ぶとすると、「事故が起きたではないか」ものが言えなくなる

責任が及ばないのが国際的基準

言いつ放しでいいのか？限界

最終的にはちゃんと事業体が提案をしてきたもの 統合することができる

有識者 プロジェクトコーディネーター コミットしてることが必要

いきなり指名されてもその時点では終わっている

なんらかんらコミットメントが必要

案1か案2かといわれれば案2

隔たり

そういう意味では案2 時間はかかると思う

試作段階 経済性を理由

より多くの人を満足 ソリューション 終わった段階でこれでいきましょう

最低限のこと 終えてからやると1年半

認証機関 2-3000万円かかる

この線で行こう 実証試験 安全装置がついていない

試験をやっているときに被害が及ぶのではないか

障害者を試作利用してもらおう

リスク ベネフィット取れているのか

時間がかかるという意味でも、案2でいけばよいが、最低限試作 ものすごく大きなハード

ル

多くのもの 実用化につながらない スキーム書類審査

現場を見てどうするか こういうアイデア拝見して、有識者アドバイス
絞ってまた となるのではないか
最終的な結論 似たものになるのでは
峠の見えるところまで進める必要がある
考えることが後半にでてくるのではないか

11:01

三浦:確認したいが、昇降機 対象者は電動車いすでないと動けない方
一般的な車いすなのか どちらか

名古屋城:方針でも記載があるが、電動に限らず

三浦:おかしい

電動車いすでないといけないもの 設備が過重になる
一般車いす、老人 簡単
別々に開発するのが当然
電動車いす 2022 年まではたぶん無理
電動でなければ 2022 年までは可能だと思う
2つのものをしては
もう少し完成年度をさげて、別公募にしては
最終年度を変えるべき
第 1 回審査 理由がわからない
途中からでも参加できる
引き続き 参加者に対するアドバイスの意味
途中、最終 提案内容に継続なら意味がある
別のものなら提案といえない
いきなり最終審査でよい
第 2 案で開発する
中間審査 全員集めるのなら、他社のアイデアを盗用、参考にすることも出てくる
いかがなものか

麓:第 1 回目欠席した

様々な福祉の方、工学、建築の方専門の方出てきて意見を言っている
今日のこれまでの意見 4 月に委員会で意見を言ったが、何の音沙汰もなかった
最終的な方針は市長、市
1 回目の委員会 意見に対してどういう考慮をしたのか

専門委員にどういう説明をしたのか
「単に意見を聞きました。方針は決めました」では済まない
全てが満足するものは難しい
最終的な案 了解している必要がある
この8ヶ月にできていない
その次に、公募の条件、前提 内容 ほとんどわからない
案1, 案2どちらがよいか
いろんな意見があるんでしょうが、どのように反映されるのか
その後市が検討した上で、どう委員に説明するのか
年2-3回委員会ですすめるのは困難
磯部先生の疑問に検討していること 伝えていかないと行けない

堀越:事務局の方でご意見があれば

西野:4月に第1回 ご意見を頂いた
方針を決めていく 3案
そういうことのなかで4月に意見を頂いた
市の中で検討をした 5月の段階で市としての方針は決めた
各先生に説明した
十分な説明ができていなかったことは反省するところ
今後、新技術のコンペ 今日意見を踏まえて公募スキームを考える
検討状況 適宜説明をする

小野:それぞれのご専門 それぞれのご意見
思うのは、木造天守の基本的な枠組み
「史実に忠実な」いろいろな部分で問題に
史実に忠実な 市として決められて、部会などで進めているのは事実
史実に忠実はあり得ない できるだけ忠実に
現代の技術を取り入れてという基本方針はよいとおもう
「できるだけ」という表現 どこかで妥協点
落とすところを見つけるのは必要
強く思う
今日のような意見を踏まえ、麓先生も言われたが、
公募の具体的な内容がないと
公募の内容に関わること
条件を明確にしていくこと

対象者、大卒の史実に忠実なにも関わる
公募の条件をできるだけ具体的に示してもらわないと
スキーム 1 案、2 案 その条件がはっきりしないと
行政の立場 意見の中で、木造天守を実現する期間的なもの
こうしたいということを明確にすることが必要
これはいろんな人から出ている
スキーム どなたかがいわゆるプロポーザルがあってもよい
公募して 2 案 第 1 回審査 2 年目 書類上専門家意見を頂いて
2019 年、2020 年 もう一回審査的なもの
次のもの 手続
全てを満たす案 できないだろう 困難 私ども思っている
我々の意見をおくみ頂いて具体的提示して頂いて
検討会議 意見を言いつばなしではないか
1-2 回はご意見をいただけるプロセスを頂きたい

11:16

堀越:ありがとう

公募スキーム以前のスキーム
ニーズの調査、市場
やるにしても公募の前提条件
工程の問題 複数に分ける
国際コンペ 条件整備 どうしていくか
技術的 個別的技術対応
そういう意味では安全性の検証 責任をどう取るか
市の方として、今の中でお伺いできるものがあれば

名古屋市やがた:ありがとう

意見を踏まえ、また会を設けて検討したい

堀越:意見があれば

川地:今の先生方の意見 思いついたこと

2 人の先生 結果としてどれも満足するものがでてこないという不安
福祉 業界のトップに聞いたら「このテーマは簡単ではない」
大変なテーマ
何が何でもいい結果を出さないと行けない

単に今までの福祉機器ではなく、違う分野での提案が必要
私の知り合い 自ら車いすに乗っている人
大学の研究室と組んで提案したい
従来福祉機器 一から開発する人 同じスタートラインだとはじめから決まっている
4年では厳しすぎる
公募スキーム 部門を分ける
・既存の機器を改善する
・提案からするもの
素晴らしいものは具体的に
部門 同じチームを組むことがあってもよい
同意があれば一緒にチームを組むこともあってもよい
厳しいスケジュール

堀越:他には

渡辺:利用イメージがわからない
天守閣が復元されたとき、どういう設備をどう見るのか
技術先行形がいなめない どっちか選べない
想定される利用者による意見聴取
4年後どうなっているか非常に不安
シーズ調査からはじめては
なかなか難しいのか?

堀越:努力は重ねているとは思いが

西野:4年間ということで、私ども建物完成目標 2022年を見据えてコンペ
ベースにおきながら、今日の先生方のご意見 ニーズを把握する必要性
整理して次のコンペの内容を作る際やっていきたい

渡辺:ヒアリングではなく、参加型を希望する

堀越:開発者のなかに障害者が入っていくという方法もある
ご意見があれば

高橋:今日の資料 基本方針について、「史実に忠実にはエレベーター無し」
技術開発 史実にある意味での改善

エレベーター 垂直移動
2100 補強 史実に忠実
現代 いい意味での妥協
業者からあれば含めてはどうか
歴史的な現にあるものにエレベータをつけるというわけではない
その中でも努力している
差別解消法を持ち出すまでもなく、新築建築物
踏み外していいのか
公共団体としての質が問われるのではないあ
この期間で開発できるのか 無駄になるのではないか心配
竣工年を先に延ばしても、可能かどうか試行しないと
やりながら考える この技術については使う人が見えない、
駅のラッシュほどではないが観光の目玉
事業者を募集するのかどうかと懸念

山田: 期間が問題

4年では目指すもの 経験的に公募、書類、一次審査
こちらからどんどん情報を出して行って、公募しようとする人
情報と枠組みを示す必要がある
1年目で公募 全速力で走っても来年6月でも難しい
情報の開示、枠組み 総括的な決めていくプロセス
公募プラスアルファで終わってしまう気がする
駆け込みで2年目の頭
そこからいくつもいろんな観点 誰がどうするのか
青写真 そこからしばらくかかる
1次試作、技術の発想 やっと作り始める
3年目 最終審査
評価指標 最低1年半
評価項目 史実に忠実である 安全性
どんどん前倒しで プロセスとしては開示、書類審査、試作、どうコンソーシアムを組むか
最終的にするか

堀越: 他には

磯部: 条件が必要

次年度予算なんてのんびりしていてよいか？

優秀なゼネコンもバックがいる

だったら いきなりでくる スケジュール管理があまい

11:30

堀越:市場を押さえて

技術を提案 先生方の意見を密に伺う

他の報告

名古屋城服部:報告

場内にある建造物 個別にバリアフリーの対応

名古屋城全体の観覧環境 十分行き届いていない

場内を中心に、アクセスルートを含めて面的なバリアフリー調査

観覧環境調査

3点 正門~各所

地下鉄出入口から門まで

ウェブや案内サイン、パンフなど

障害者、高齢者、子育て支援、外国人関係団体 40 団体

委託業者を通じて調査依頼

各団体 4 度ヒアリング 3 月中旬報告書

報告書で意見をいただいたものは、できるものは準備改善する

堀越:意見

高橋:検討調査 復元の問題も踏まえて

実施方法 ヒアリング 40 団体 期間が限られる

全てではないが、グローバル

開かれた調査のやり方をすべき

様々なやり方 現状確認のためワークショップ 改善提案ワークショップ

その後のワークショップ 最低 3 回

問題が明確になる

具体化して業務委託したほうが、役にたつ報告書になる

磯部:名古屋市の健康福祉局 福祉のまちづくり協議会の座長

名城公園 都市公園

バリアフリー法 バリアフリー重点整備地区ができる

鉄道駅を中心に、名古屋、金山、栄、大曾根

都市公園も候補地になる

まずは調査して、ぜひ健康福祉局の推進協議会で議論すると実りあるものになる

堀越: 他には

ここを中心に全体としてのあり方を

特になければ終わり

蜂矢: ありがとう

今後ともよろしく